

社会人基礎力協議会News



第6号 2021年3月31日発行

1 2020年度 社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

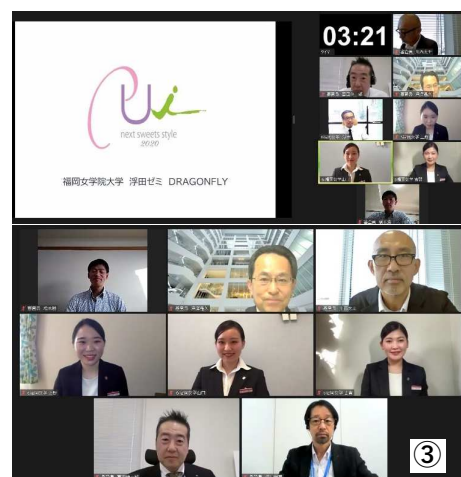
「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、大学等での社会人基礎力の育成に関して大きく成長をとげた学生らの表彰を通じて、各大学の効果的な取り組み事例を広く多くの方々に周知する趣旨で開催しています。2020年度のグランプリは、協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て、日本商工会議所および公益社団法人経済同友会のご後援、オブザーバーに経済産業省を迎えて開催しました。全国から総数28チームの応募があり、2月に各地区で行われた各地区予選大会で最優秀賞6チームが選ばれました。そして3月17日にその6チームがオンラインで集い、決勝大会を開催しました。決勝大会では、学生らが成長へとつながった活動での数々のエピソードがプレゼンテーションされました。また教員による授業等の取り組み内容、その狙いなど説明もあり、社会人基礎力育成に関する大きなヒントが得られました。

開催概要

日時・場所： 2021年3月17日(水) 13:00～17:20 オンライン開催 (ZoomミーティングおよびYouTubeライブ配信)
 審査員長： 実践女子大学 文学部 国文学科 教授 深澤晶久氏
 審査員： 株式会社博報堂 TOKYO2020推進室室長 川西 太士 氏
 株式会社ウチダ人材開発センタ 代表取締役社長 富田 伸一郎 氏
 経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室 室長補佐 橋本 勝 氏
 株式会社日経HR コンテンツ開発室長 渡辺 茂晃 氏 (以上、審査員は50音順)

出場チーム・発表テーマ・全国大会結果

地区	大学名	テーマ名	大会結果
北海道 東北 関東	創価女子短期大学 国際ビジネス学科	児童虐待で苦しむ親子を救うための「児童相談所虐待対応ダイヤル189」の普及活動	大賞
	拓殖大学 商学部経営学科	拓殖大学のプラスチック削減活動	
中部 中四国 九州沖縄	阿南工業高等専門学校 創造技術工学科	電気技術イノベーション実習	準大賞 審査員特別賞
	福岡女学院大学 人文学部現代文化学科	PUIプロジェクト	
近畿	流通科学大学 人間社会学部観光学科	第11回関空発『学生と旅行会社でつくる』海外旅行企画コンテストへの取り組みならびに(株)読売旅行との協働	
	京都芸術大学 芸術学部	京都から日本の伝統文化・産業の継承・発展に向けたイノベーションを起こすことを目指して	



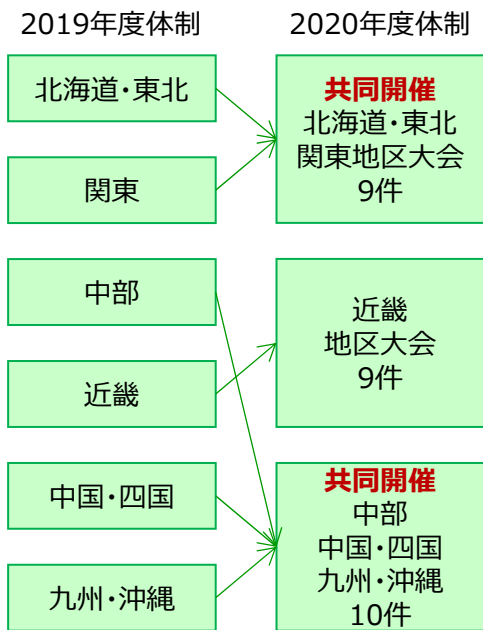
- ①社会人基礎力大賞 創価女子短期大学
- ②社会人基礎力準大賞 阿南工業高等専門学校
- ③社会人基礎力準大賞 福岡女学院大学

全国決勝大会動画 <https://youtu.be/tl6mBidPm3w>
 期間限定公開中 2021年5月31日まで

「コロナ禍のためいつもの活動ができない！」「いつもの方法で教育できない！」各大学等でそうした苦労があったと思いますが、「社会人基礎力」の育成はどんな社会状況でも必要であり成長も続くと考えます。本大会は、社会人基礎力育成の観点から授業等の取り組みと学生たちの成長を重視しています。いつもと違う社会状況であればこそ「社会人基礎力」の育成・成長を多くの視点で評価し表彰したいという考えのもと、コロナ禍のなかでも実施できる方法を模索し、オンラインにて無事開催に至りました。審査員としてご協力いただいた皆様、全国各地区の多くの先生方、運営支援として参加した学生の皆様、発表チームの皆様、協賛・ご後援いただいた団体・企業の皆様など、関わる全ての方のご協力によって運営できました。オンライン開催は初めての試みでしたので、同様のイベントを開催される場合のご参考に、運営の裏側をレポートいたします。

運営の工夫① オンラインならではの共同開催！一部地区を統合して地区予選実施

地区予選は、従来、北海道・東北地区、関東地区、中部地区、近畿地区、中国・四国地区、九州・沖縄地区の6地区で行っていましたが、コロナ禍により応募チーム数、運営体制の条件の地域差もあり、予選の必要性と意義を再確認し、さらにオンラインならではの特性を生かして一部地区で共同開催を取り入れました。地区を編成して3地区とし、9件、9件、10件での予選大会の開催となりました。



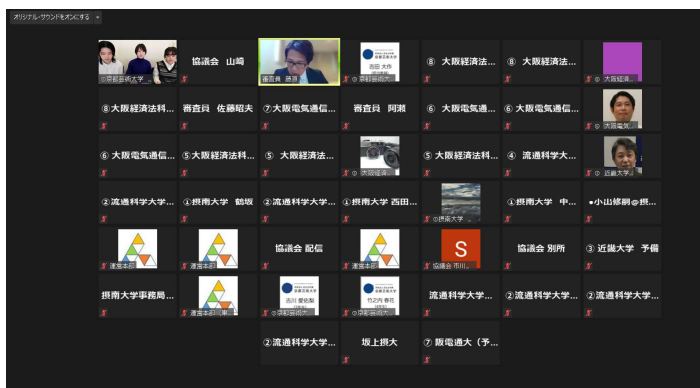
開催してみたの一言
 コロナ禍の影響で応募チームは0件かもしれないと危惧しましたが、実際には応募多数で安心しました。また、これまでと変わらない活発な活動でした。オンライン運営は、会場準備、案内、配布物などの負担がとても軽いことに気づきました。一方で、当日の運営は東京と長野にスタッフが分かれて行いましたが、遠隔で1人だと大会開始後の連絡は取りづらいですね。運営中の連絡方法に工夫が必要と感じました。

開催してみたの一言
 近畿地区では昨年と変わらない応募件数で開催でき、安心しました。近畿地域の実情もあり、早々にオンラインのみでの開催を決めました。他地区での開催方法に一石を投じることになったと思います。審査員のみならず皆様にもこれまでと同様のご協力をいただきましてありがとうございます。

開催してみたの一言
 九州・沖縄は応募1件でしたが合同開催によって、他流試合さながらで他地域と交流ができ良かったと思います。中国・四国はオンライン開催による交通負担の緩和から、新たな学校が参加できたと思います。地域的には対面開催も可能でしたが、オンラインの同一条件で予選が行えたと思います。中部では運営面の人的不足が心配でしたが、合同運営によって開催ができたと思います。

運営の工夫② 発表チーム&関係者はZoomミーティング 一般観覧はYouTube

例年、各地区の会場には、発表者、審査員、運営スタッフの他に、参加校の関係者らが集まります。三密を避けるため、当初は発表者と審査員は会場で、関係者はオンライン配信と考えていました。最終的には完全なオンライン開催しましたので、発表者・審査員・事務局などの関係者はZoomミーティングに参加していただき、発表チームの応援者を含めた一般観覧者はYouTubeのライブ配信を利用することにしました。観覧者の参加をYouTube配信にしたことで、観覧の参加人数を気にすることなく大会メインの円滑な進行ができたと思います。Zoomの標準機能にYouTubeへの配信もありますが、使い勝手が悪いことから使用しませんでした。まず配信を担当するPCでZoomミーティングに参加します。そのPCの画面をライブ配信用のソフト（OBS：Open Broadcaster Software）を使用しYouTubeへ配信しました。OBSを使用するとタイトルやテロップを入れることができ、休憩時の案内にも使用しました。一見すると煩雑なソフトに見えますが、要点を押さえればとても便利に使えます。配信の画面のレイアウトも担当PCでレイアウトを変えればよく、参加者視点で配信の構図が選べました。Zoomのブレイクアウトルームへ参加すれば、ブレイクアウトルームの様子も配信できます。これは今のところZoomの標準の配信機能ではできないことです。



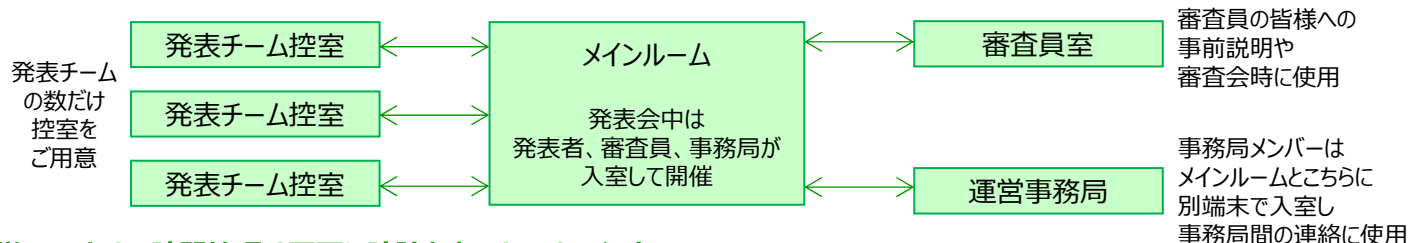
Zoomミーティングに発表者・関係者が集合（数十名規模）



発表の様様をYouTubeでライブ配信（関係者にURL連絡）

運営の工夫③ ブレイクアウトセッションを使って審査員室や発表チーム控室を用意

大会当日は、各発表チーム同士の打ち合わせや審査員の会議、運営打ち合わせなど様々な単位でのコミュニケーションが必要です。会場開催の場合は、メイン会場と審査室とスタッフルームを用意することで済んだのですが、コロナ対策としてのオンライン開催では、学生らが同一の場所から参加することを条件にできません。そこでZoomの「ブレイクアウトセッション」機能を使って参加チームごとの控え室を実現しました。Zoom最新バージョンでは、参加者がブレイクアウトルーム間を自由に移動できるように設定できます。以前は、ホストが参加者の移動を行う必要がありました。ブレイクアウトルーム機能はZoomウェビナーにはありません。チームの控え室の他に審査室、運営室も用意し、当日の円滑な運営に大いに貢献しました。さらにこの機能で、参加者の交流イベントも行うことができました。コロナの影響で学内での交流が減っていた学生からは、他大学の学生とも交流ができて良かったとの声が届きました。



運営の工夫④ 時間管理は画面に時計を表示してリマインド

本大会では、発表時間をZoom参加者のカメラ映像として表示しました。本誌1ページ目の発表会写真に写っている時計がそれです。タイマーはWEBアプリを使いました。Zoom表示には、YouTube配信でも用いたOSBの仮想カメラ機能を使いました。配信する映像としてアプリ画面を指定し、ZoomからはカメラとしてOBSを選ぶと、選んだアプリの画面をWEBカメラの映像に置き換えることができます。時間を知らせるベル音を配信するには、技術的にもう一工夫必要で、仮想オーディオを使います（例えばVB-CABLE）。ZoomからマイクとしてVB-CABLEを選ぶと、アプリの音をZoomで流すことができます。さらに大切なのがZoomのオーディオ設定で、雑音抑制を「低」にすること。自動のままだとアプリのベル音はノイズとして抑制されます。なお、実際にはほとんどのチームが時間内での発表でした。時計表示を見て調整できたのだと思います。このため時間内で終わったときは、マイクをミュートにして、ベル音が流れないようにしました。

オンラインでのメリット・デメリット総括

本大会は広域に行われるので、参加者が会場に集まる負担が減ることは大きなメリットです。さらにオンラインと配信の併用は、観覧者にとって、その時間、その場所に行けなくても大会に参加できるメリットがありました。大会翌日も新規の動画閲覧者が当日とほぼ同数ありました。結果的に昨年度までよりも多くの方に全国大会を閲覧していただけました。さらに配信の実現に関して、運営側の負担はとも少なく済みました。もしも会場開催を中継しようとするカメラの準備や担当者の手配の負担が確実に増えます。その一方で、デメリットは地域性が希薄になることかもしれません。今回、応募締め切り後に応募数によって3地区の合同開催を決定しましたが、参加者にとって少し戸惑いがあったように思います。審査員からは会場でその熱量が感じ取れるという声もありました。実施方法に関して、オンライン開催という選択肢が増えた分、次回の運営に関しては悩ましく思っています。（委員長 市川純章）

3 コロナ禍でオンライン化、リカレント委員会のミッションを再定義

リカレント委員会

2020年度を振り返って

コロナ禍において、オンラインによる6回の勉強会（フォーラム）と中間および1年の振り返りを2回開催しました。2019年度までは、対面による勉強会を開催していましたが、2020年度はZoomを使い、完全オンライン化しました。これにより、地方からの参加も容易となり、居住地や職業など、様々なバックグラウンドをお持ちの方々の情報交換の場になりつつあります。

2021年度も同様に、前期3回、後期3回を偶数月に実施し、9月と3月に振り返りを行う予定です。

フォーラム各回の主なテーマ

- 第1回 「コロナ時代の社会人基礎力とリカレント教育」長尾代表理事
「自粛期の過ごし方と近況報告」参加者全員による自由な意見交換
- 第2回 「リカレント委員会2020年事業計画と課題・目標／勉強会テーマ提示の背景と狙い」芝原リカレント委員長
「オンライン授業・研修&企業のリモート活用の現状」渡邊リカレント副委員長
- 第3回 「VUCA時代を生き抜く社会人基礎力WEB診断紹介と活用の展望」（株）日経HR 北村氏
「企業におけるコミュニケーションのオンライン化のメリット&デメリット」（株）アクシーズ中尾氏
- 第4回 「社会人基礎力の意義」芝原リカレント委員長
「中堅社会人の社会人基礎力」渡邊リカレント副委員長
- 第5回 「リカレント教育とは。現状・意義と協議会の在り方」長尾代表理事
「経営理念と人材育成」（株）埼玉新聞事業社 武井雅史社長／近藤取締役
- 第6回 「組織と個人のリカレント思考と教育」渡邊リカレント副委員長
「オープン型新人研修における社会人基礎力の活用について」（株）ウチダ人材開発センタ 嘉山取締役

2021年度に向けて

2020年度は「企業と個人の関係性」に大きな変化をもたらしました。上期のフォーラムでは「大学・企業でのオンライン化のメリット・デメリット」と、そこから見てきた「社会人基礎力の意義とリカレント教育の在り方」について、参加の皆様と事例研究・意見交換を重ねてきました。下期のフォーラムでは、「社会人基礎力の意義」を再確認し、「リカレント教育とは何か」を議論しました。

その結果、2021年度に向けたリカレント委員会のミッションを【リカレント教育の情報HUBとして情報交換する】と再定義できました。

今後のリカレント委員会におきましては、おもに組織、個人それぞれにおけるリカレント教育（3つの視点）について、企業の人材育成事例、また、教育業界における実践例など、情報交換をはかってまいります。（副委員長 渡邊明男）

2020年度を振り返って

研究委員会の主な活動は、社会人基礎力に関する研究であり、機関誌の発行を中心に社会人基礎力に関する情報発信を行っています。2020年度は新型コロナウイルスによる外出の制限等により対面活動が制限され、大学では、オンライン授業の実施は必須でした。誰もがこの変化に戸惑いながらも、しかし立ち止まることなく前進した年だったと思います。

この出来事が20年前、いや10年前だったらどうかと想像すると、ネットワーク技術に大いに感謝するところです。学校でも企業でも家庭でも、ネット会議システムの恩恵を大に受ける変化の年でした。2021年度は更に合理的かつ効果的に活用する知恵をつけていく必要があります。このようなことを踏まえ本研究会では新しい時代の社会人基礎力の方向性を模索したいと考えています。

社会人基礎力学修交流研究会

社会人基礎力学修交流研究会の議論のテーマは、「学び続けるための社会人基礎力」とし、遠隔会議システムを利用することにより、広く各地域から参加者を募り、年2回の開催を予定しています。参加者は、学生、企業、教員等で構成します。2020年度の研究会のテーマは「プロジェクトマネジメント」で、コロナ禍により集まって議論することができなかつたため、Zoomを用いての活動でしたが、新しいディスカッションの形を学ぶきっかけとなりました。

2021年度は、この1年で当たり前となったネットコミュニケーションスキルを更に有効活用した活動を進めることが必要だと考えています。新しい時代の人と人とのコミュニケーションの構築です。Zoomを使った研究会やこれまで同様の会場での研究会を実施いたします。社会人基礎力育成グランプリ各地区大会に参加したチームの皆さまや、ゼミ単位でのご参加をお待ちしています。広いコミュニケーションの場を共に共有し活動したいと思います。

機関誌の取組みについて

2020年度の機関誌『社会人基礎力研究』は3月に第2号を発行することができました。キャリア教育は、2003年（平成15年）に、「将来を担う若者たちに勤労観、職業観を育み、自立できる能力をつけることを目的」とし、小学校から大学までインターンシップや企業研究などが取り入れられるようになり、15年以上のときを超え教育の一部として一般化してきました。そして社会人基礎力に関する研究も多く、本協議会においてもますます活発に議論し活動する必要性があり、本機関誌の役割も大きくなると思われます。2021年も新型コロナウイルスによる影響は続くと思われる。テレワークやオンライン授業による、新しい社会人基礎力に関するテーマがあると期待し、第3号への皆様からのご投稿をお待ちしております。

（委員長 栗田るみ子）



5 社会人基礎力に関する書籍発刊のご案内

「社会人基礎力を鍛える 新人研修ワークブック 第2版」（日経BP社 山崎紅著）が2021年3月11日発刊されました。社会人1年生が読んで学ぶ本であると同時に、教育部門や教育専任者がいなくて新人研修が手薄になる恐れがあると困りの企業のために、これ1冊あれば新人研修として行うとよい内容をおおよそカバーできるように作られた本です。研修を行う方向けのガイドや投影資料（PowerPoint）、アセスメントツール（Excel）も付属していますので、よろしかったらご活用ください。

なお、主に学生向けの「求められる人材になるための社会人基礎力講座 第2版」（日経BP社）、主に再就職を目指して職業訓練を受ける方向けの「選ばれる人材になるための職業能力開発講座 ビジネス知識編」（日経BP社）と合わせて3部作になっています。ご参考まで。



Amazonなど各種オンライン書店、全国主要書店にて販売中
お問合せは、研究委員会 副委員長 山崎紅まで
（下記事務局メールへお願い申し上げます）

編集後記



関係者の皆様のご支援、ご協力によって、本協議会にとって最大のイベントである社会人基礎力育成グランプリが無事開催できました！その運営の裏側レポート、いかがでしたか？同様のイベントをされる皆様のご参考になればと思い、記事にいたしました。

このNewsでは今後も大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていく予定です。会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などもお待ちしております。左記QRコードの協議会HP「お問合せ」フォーム、または、下記事務局メールへお気軽にご連絡ください。よろしく申し上げます。

（担当：研究委員会副委員長 人材開発コンサルタント 山崎 紅）